

はじめの田うん体けん

新がた市立浜浦小学校三年 富樫 晃介

おとしの五月、五せん市というところに
田うん体けんへ行きました。なぜならお姉ちゃんに
さそわれたからです。ぼくはあまりきょうみがなかつたけれど、せいかくなので行ってみることにしました。

田うんの日は、晴れていてもあつかつたです。田んぼには、用水ろから水がながれ
こんでいて、けしきがさかさまにうっついてい

ました。水があふれたいしななのかなとふしぎに思いました。

ぼくは、半そで半ズボンにはだしで田んぼに入りました。田んぼはどろどろして歩いて歩くのがとても大変でした。さいしよに、なえを同じ間かくでうゑるために道具を使って線をつけました。次に、線にそってなえをうゑていきました。なえがたおれないうえにうゑるのがおあつかひです。田んぼが広くて全部うゑるのが大変でした。うゑおあつた後

用水で遊んでいたらザリガニのはさまがあ、
こびりしました。あつかったから、田ん
ぼが大へんでした。けれど、農家の人たち
が、かんぼ、ておいしいお米を作、てくれるの
です。ごいな、も思いました。

しかも、うかくは十月です。ずしい日でした。田
んぼには黄色のお米が広が、ていました。近
くで見たら、お米のつぶが、数えきれないほど
多くて、ほがたれていました。ぼくは目の前
の田んぼから、何人分のお米がとれる、だろう

と、ギョ、間に思いました。カマでいねをかると、
ザク、とした感じがして、楽しかった。です。し、
うかくがおあ、つた後、農家の人たちが作、て
くれたおにぎりを食べました。とてもおいし
かった。です。

ぼくは、田んぼ体けんに行、てお米作りが
とても大変だ、と思いました。農家の人たちに
かんし、しなが、ら大事に、ごはんを食、たいで
す。